

平成25年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成25年10月24日

上場取引所 東

上場会社名 B-R サーティワン アイスクリーム株式会社

コード番号 2268 URL <http://www.31ice.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 渡辺 裕明

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 兼 経営企画室長 (氏名) 門田 浩

TEL 03-3449-0331

四半期報告書提出予定日 平成25年11月8日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年12月期第3四半期の業績(平成25年1月1日～平成25年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年12月期第3四半期	15,981	△0.4	1,588	△26.1	1,636	△25.4	937	△22.7
24年12月期第3四半期	16,042	4.8	2,147	△3.6	2,192	△3.0	1,212	5.9

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年12月期第3四半期	97.24	—
24年12月期第3四半期	125.83	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年12月期第3四半期	15,351	10,993	71.6
24年12月期	15,546	10,929	70.3

(参考) 自己資本 25年12月期第3四半期 10,993百万円 24年12月期 10,929百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年12月期	—	40.00	—	50.00	90.00
25年12月期	—	40.00	—	—	—
25年12月期(予想)	—	—	—	40.00	80.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年12月期の業績予想(平成25年 1月 1日～平成25年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	21,700	4.4	3,000	8.2	3,070	7.1	1,780	12.8	184.72

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
(注) 詳細は、添付資料P.5「2. サマリー情報(注記情報)」に関する事項(1)四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年12月期3Q	9,644,554 株	24年12月期	9,644,554 株
25年12月期3Q	8,561 株	24年12月期	8,561 株
25年12月期3Q	9,635,993 株	24年12月期3Q	9,635,993 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)4ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	4
(3) 業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期財務諸表	6
(1) 四半期貸借対照表	6
(2) 四半期損益計算書	9
(3) 継続企業の前提に関する注記	10
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間(平成25年1月～9月)における我が国経済は、ここ数年の厳しい経済環境からは回復基調にあり、平成24年度末の新政権発足後はアベノミクスの金融緩和・財政出動により株価が上昇し、円安による輸出環境の改善など景気回復の兆しが見えてきています。一方では、これから起きる物価上昇・消費増税・電力値上げ等を見通し、個人消費におきましては生活防衛意識や節約志向が依然として強く、外食産業は厳しい状況が続いております。

このような環境の下で、当社ではサーティワンアイスクリームの永遠の経営モットーであります“*We make people happy.*”「アイスクリームを通じて人々に幸せを。」をスローガンに、全てのお客様に高品質で美味しいアイスクリームと“FUN(楽しいこと、嬉しいこと、感動すること)”に満ちたひとときを提供し、日本で最も愛され親しまれるチェーンとなることを目指すとともに、企業の継続的成長の維持と、企業価値の増大に努めてまいりました。

そして、当期は当社創立40周年となります。そこで、これまでのご愛顧に感謝するための様々なプロモーションを企画し、実施してまいりました。

その第一弾として3月30日から6月にかけて「31 ニューフレーバーコンテスト」を実施いたしました。これは当社ホームページ上で新しいフレーバー開発のアイデアを広く消費者へ募る消費者参加型の企画で、予想を上回る7万件以上の応募をいただきました。そして最優秀フレーバー“ホールインワン!”を9月のフレーバー・オブ・ザ・マンズとして全国のサーティワンアイスクリーム・ショップで発売いたしました。

また、店頭においても3月30日から4月26日まで「Get All 31 Flavors! 31種類ひとりじめのチャンス!」を実施いたしました。これは、商品を購入されたお客様に抽選券を400円毎に1枚お渡しし、パソコンまたはモバイルよりプロモーション特設サイトにあるゲームでアタリが出た3,100名様に、キッズサイズのシングルコーン・カップ引換券31枚をプレゼントするインスタント方式のプロモーションです。また、ダブル・チャンスとして、アタリ・ハズレ関係なく抽選券4枚でキッズサイズのシングルコーン・カップ1個をプレゼントいたしました。

さらに、5月10日より40周年を記念したスーベニアカップサンデー2種類を7万個限定で販売いたしました。

そして6月は、サーティワンの魅力を40周年に掛けて、スモール・ダブルと同じ価格でキッズサイズよりやや小さいミニサイズのアイスクリームを4種類選べ、40%増量となる期間限定商品“Happy 4 you”(5月29日～6月28日)を販売いたしました。

これらの40周年プロモーションを実施し、記念イベントを盛り上げ、店舗への来店頻度向上の促進を図りました。

その他のプロモーションについては、1月はアイスクリームの詰め合せ商品であるバラエティパック、ギフトボックス、パーティーボックスをお買い上げのお客様に、‘スヌーピー’ハートディッシュをプレゼントするニューイヤープロモーション(1月1日～1月6日)を実施し、フレーバーのバラエティさ・楽しさを訴え、高単価商品の拡販とヘビーユーザーの再来店を促進いたしました。

引き続き冬場のテイクアウト商品として、お求めやすいお得な価格で期間限定の新商品「‘スヌーピー’ハッピーバッグセット」(1月12日～2月15日)を販売いたしました。テイクアウト用保冷バッグやアイスクリームのパッケージも全て‘スヌーピー’のデザインとし、消費者の購買意欲を高めました。

3月の「ひなまつり」（2月16日～3月3日）では、“ひなだんかざり”、“おひなさまカップ”、“苺おひなさまカップ”や、ひなまつり仕様のアイスクリームケーキなど期間限定商品を販売し、オケージョン商戦の売上を確保いたしました。

また、苺の美味しさをたっぷり味わえる“フレッシュストロベリーサンデー”（12月26日～3月29日）を販売し、アイスクリーム専門店サーティワンならではのシーズンサンデーを提供することにより、ブランドの差別化を図りました。

3月4日からは、昨年は4月に実施した「ワンダフルイースター」（3月4日～3月29日）を実施いたしました。イースターらしいタマゴをモチーフにしたエッグカップサンデーに新商品ヒヨコエッグを加え、持帰り商品のイースターバラエティBOX、イースターに因んだアイスクリーム2種類（イースターヨーグベリー、イースターエッグハント）や新商品のフルーツミックスを販売し、3月の売上増を図りました。

ゴールデンウィーク期間中（4月27日～5月9日）はダブルコーン・ダブルカップを31%値引きして提供するキャンペーンを実施し、期間中はTVCMで告知いたしました。

5月10日から5月30日は「アイスクリームドリンク・プロモーション」を実施し、4月27日新発売の“ミントチョコオーレ”を含めたアイスクリームドリンク商品をお買い上げのお客様全員に‘スノーピー’6色ボールペンをプレゼントいたしました。

真夏の最盛期には恒例の強力なキャンペーンで、今年8年目となります「真夏の雪だるま大作戦」（6月29日～7月30日、キングサイズのコーン・カップをお買い上げのお客様全員にキッズサイズ1スクープをプレゼント）と、今年で11年目となります大好評の「チャレンジ・ザ・トリプル」（8月1日～8月30日、ダブルコーン・カップをお買い上げのお客様全員に1スクープをプレゼント）を実施し、どちらもTVCMにより強力にキャンペーン告知をいたしました。

また、9月2日～9月8日の期間は31club（モバイル会員クラブ）会員の好意醸成のため、9月1日までに入会された会員限定で、レギュラーコーン・カップをお買い上げいただくとキッズサイズ1スクープをプレゼントする「キッズ1スクーププレゼント！」を実施いたしました。

さらに、9月の連休にはダブルコーン・ダブルカップを31%値引きするキャンペーン（9月13日～9月23日）を実施し、TVCMによるキャンペーン告知をしてお客様の来店促進を図りました。

戦略商品のアイスクリームケーキには、4月27日より新商品として人気フレーバー6種または4種のピースケーキを組み合わせたホールケーキ“パレット6”と“パレット4”を投入いたしました。このケーキはカットする手間がなく、気軽に楽しめる新しいアイスクリームケーキです。また、8月には‘ディズニー’並びに‘スノーピー’キャラクターを使ったアイスクリームケーキ5種類のリニューアルも実施し、誕生日会やお土産などテイクアウト需要への拡販を図ってまいりました。

新たなコミュニケーション・ツールとして3月1日より公式Facebookページを開設いたしました。消費者と双方向のコミュニケーションが可能なFacebookを活用し、ブランドロイヤリティの醸成と店舗への来店頻度向上へ結びました。

そして8月27日には公式LINEアカウントを開設し、無料スタンプ・プレゼント（9月10日～10月7日）を実施するなどSNSを活用したバイラル・マーケティングを展開し広告宣伝の強化と効率化を図りました。

なお、5月12日には全国1,087店舗において2時間、募金をしてくださったお客様全員にレギュラー・シングルコーンを1つプレゼントする社会貢献イベント「フリースクープ」（今年で12年目）を実施し、全国で約88万人ものお客様に参加していただきました。お客様よりの募金と、当社からの寄付金

を合わせた38,238,140円を、日本赤十字社を通じて東日本大震災被災者への義援金として寄付いたしました。

店舗開発の状況といたしましては、2009年から新しいロゴの看板と店舗デザイン「Hip Hop」を導入し、店舗イメージ刷新を図っております。新しい店舗は当期45店開設し、当第3四半期末の店舗数は1,136店舗と前第3四半期末に対して16店舗増加いたしました。改装は当期74店実施し、既存店へも新しい店舗デザインの導入促進をいたしました。

以上の施策を進めてまいりましたが、7月の突発的な豪雨の頻発や9月の連休に台風が日本を直撃するなど天候不順に見舞われ、売上が予想に反して伸びなかったことから、当第3四半期の売上高は159億81百万円(前年同期比0.4%減)となりました。

売上原価は、原材料価格上昇や円安の影響により65億26百万円(前年同期比2.8%増)となりました。

販売費及び一般管理費は、78億67百万円(前年同期比4.2%増)となりました。主な増加要因は、販売強化のための広告宣伝費(1億69百万円)、販売促進費(42百万円)の増加及び業容拡大による人員増に伴う人件費の増加(53百万円)であります。

この結果、営業利益15億88百万円(前年同期比26.1%減)、経常利益16億36百万円(前年同期比25.4%減)となりました。

また、四半期純利益は9億37百万円(前年同期比22.7%減)となりました。

なお、当社はアイスクリーム製品の製造及び販売等を行う単一セグメントのため、セグメント情報の記載を省略しております。

(2) 財政状態に関する定性的情報

当第3四半期末における総資産は前事業年度末に比べ1億95百万円減少の153億51百万円となりました。当累計期間では店舗数増加に伴う製品需要増に備えた製品および原材料の増加、新規出店による賃貸店舗用設備、敷金及び保証金の増加や富士小山工場の排水処理設備増強による構築物の増加等がありましたが、9月は前期末12月に比べ売上規模が小さく、これによる売掛金の減少と法人税等の支払い等による現金及び預金の減少があったため総資産は減少いたしました。

負債は前事業年度末に比べ2億60百万円減少の43億57百万円となりました。これは、ショッピングセンター内出店店舗の売上金が当社を経由して加盟店に支払われるため当社が一時的に預かることにより発生した預り金の増加がありましたが、法人税等の支払による未払法人税等の減少があったため負債総額は減少しました。

純資産は前事業年度末に比べ64百万円増加の109億93百万円となりました。これは主に第3四半期累計期間の四半期純利益が前事業年度の期末配当金の支払額及び当事業年度の中間配当金の支払額を超えたため、繰越利益剰余金が増加したことによるものであります。

(3) 業績予想に関する定性的情報

平成25年2月6日に公表いたしました「平成24年12月期 決算短信(非連結)」の業績予想より変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当事業年度の予想税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表
(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,890,270	3,113,060
売掛金	3,062,349	2,870,640
製品	617,193	877,523
原材料	270,247	490,445
貯蔵品	239,569	135,059
前渡金	21,733	25,643
前払費用	146,954	138,306
繰延税金資産	73,914	81,852
未収入金	32,309	93,621
その他	60,803	67,800
貸倒引当金	△14,338	△10,925
流動資産合計	8,401,007	7,883,028
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,867,323	1,942,722
減価償却累計額	△1,135,663	△1,162,462
建物(純額)	731,659	780,260
構築物	187,899	300,783
減価償却累計額	△136,145	△139,212
構築物(純額)	51,753	161,571
機械及び装置	2,055,115	2,100,979
減価償却累計額	△1,654,181	△1,698,083
機械及び装置(純額)	400,933	402,896
賃貸店舗用設備	3,095,969	3,253,087
減価償却累計額	△1,591,487	△1,709,136
賃貸店舗用設備(純額)	1,504,482	1,543,951
直営店舗用設備	396,461	424,391
減価償却累計額	△141,344	△161,801
直営店舗用設備(純額)	255,116	262,590
車両運搬具	58,448	66,845
減価償却累計額	△24,407	△30,126
車両運搬具(純額)	34,041	36,719
工具、器具及び備品	677,409	689,754
減価償却累計額	△535,102	△578,146
工具、器具及び備品(純額)	142,307	111,607
土地	695,362	695,362
建設仮勘定	64,770	97,655
有形固定資産合計	3,880,428	4,092,615

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期会計期間 (平成25年9月30日)
無形固定資産		
ソフトウェア	142,306	109,299
電話加入権	17,065	17,065
無形固定資産合計	159,371	126,364
投資その他の資産		
投資有価証券	32,304	45,827
従業員に対する長期貸付金	10,636	9,722
破産更生債権等	222,744	218,519
長期前払費用	577,965	597,981
繰延税金資産	139,575	135,445
敷金及び保証金	2,178,146	2,296,134
その他	21,538	19,685
貸倒引当金	△76,792	△74,166
投資その他の資産合計	3,106,119	3,249,148
固定資産合計	7,145,919	7,468,127
資産合計	15,546,926	15,351,156
負債の部		
流動負債		
買掛金	380,343	566,088
未払金	1,216,802	1,082,522
未払費用	28,762	30,224
未払法人税等	665,274	31,795
未払消費税等	47,613	25,319
前受金	639,738	566,513
預り金	126,062	437,985
賞与引当金	29,703	101,919
役員賞与引当金	11,000	10,000
その他	34,439	51,675
流動負債合計	3,179,741	2,904,044
固定負債		
退職給付引当金	163,069	169,123
役員退職慰労引当金	77,400	54,591
資産除去債務	85,405	85,395
長期預り保証金	1,111,906	1,144,316
固定負債合計	1,437,782	1,453,425
負債合計	4,617,523	4,357,469

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期会計期間 (平成25年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	735,286	735,286
資本剰余金		
資本準備金	241,079	241,079
資本剰余金合計	241,079	241,079
利益剰余金		
利益準備金	168,676	168,676
その他利益剰余金		
別途積立金	4,140,000	4,140,000
繰越利益剰余金	5,643,589	5,713,361
利益剰余金合計	9,952,266	10,022,038
自己株式	△16,893	△16,893
株主資本合計	10,911,738	10,981,510
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,125	9,583
繰延ヘッジ損益	15,538	2,592
評価・換算差額等合計	17,664	12,176
純資産合計	10,929,403	10,993,686
負債純資産合計	15,546,926	15,351,156

(2) 四半期損益計算書
第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日)
売上高	16,042,963	15,981,918
売上原価	6,347,474	6,526,173
売上総利益	9,695,488	9,455,744
販売費及び一般管理費	7,547,935	7,867,666
営業利益	2,147,553	1,588,077
営業外収益		
受取利息	415	365
店舗用什器売却益	55,128	52,513
受取ロイヤリティー	3,545	8,085
その他	4,387	5,301
営業外収益合計	63,477	66,266
営業外費用		
店舗設備除去損	16,566	16,528
その他	1,713	1,136
営業外費用合計	18,280	17,665
経常利益	2,192,750	1,636,678
特別利益		
固定資産売却益	12,760	—
特別利益合計	12,760	—
特別損失		
固定資産売却損	10,544	1,353
固定資産廃棄損	15,260	43,968
特別損失合計	25,805	45,321
税引前四半期純利益	2,179,704	1,591,356
法人税等	967,209	654,345
四半期純利益	1,212,495	937,011

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。